

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

2023年度

事業所名 TAKUMI練馬武蔵関教室

	チェック項目	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	法令を順守したスペースは勿論のこと、運動のできるスペースを確保している。	
	2 職員の配置数は適切である	配置加算を採用しているため、常時指導員は常に3名体制となっている。他教室からヘルプの指導員も含めて適切に配置されている。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	建築基準法に基づき、トイレには車椅子対応の手すりなどを取り付け、バリアフリー化の配慮を行っている。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	危険がないよう壁紙を修正する等配慮している。毎日室内や使用する道具も掃除を行い、清潔にしている。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	ヒヤリハット、事故対策、会議議事録、感染対策、虐待防止対策、研修実施議事録、相談苦情、非常災害対策等々の担当者を割り振り、定期的なミーティングを行っている。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	保護者向け評価表は毎年実施し、計画的に改善を行っている。また、内容を職員間で共有している。	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	HPで公表している。	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		必要に応じて第三者の外部評価を取り入れる。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	内部・外部の研修に参加し、共有している。	
適切な支援の	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	フェイスシートなどを参照に日々の変化を記録し、児童発達支援計画を作成している。	
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	標準化されたアセスメントツールをもとに適応行動の状況把握につなげている。	
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」、「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	発達支援に重点を置き、自立支援や他者への関わりを目的とした個別療育、集団療育を設定している。	
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	毎サービス提供時間前後に計画や目標を確認し支援を行っている。	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	児発管と指導員が話し合い、プログラムの立案を行っている。また、児童の直近の様子なども考慮し立案している。	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	運動は当初の計画をもとに、児童の様子や保護者のニーズを取り入れながら、日ごとにプログラムを変えている。	

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

2023年度

事業所名 TAKUMI練馬武蔵関教室

提供	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	小集団クラスと集団クラスを設けており、契約時に適性を見極め各々のクラス設定を行っている。児童の成長に応じ、クラス変更を児発管、指導員、保護者、児童の意見を聞きながら行っている。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	支援開始前に毎日必ず打ち合わせの時間を確保し、課題を書き出し、ミーティングの中で支援方法や役割分担を行っている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	支援終了後に毎日必ず打ち合わせの時間を設け、ミーティングでは一日の振り返り、気付いた点や改善点を洗い出している。記録を必ず残し、休みのスタッフへも情報共有を図っている。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	サービス提供記録へ記入し、更に独自の一日の情報記録用紙(児童の一言情報)にも記入し、検証している。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	定期的に保護者、児発管、指導員とミーティングを行い、モニタリングをして計画の見直しの必要性を判断している。	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	相談支援事業所のサービス担当者会議がある時は、児発管と現場のマネージャーが参加している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	関係機関と情報の共有しながら、支援計画や日々の療育に反映できるよう、今後も必要に応じて連携していく。	連携が少ないため、今後必要に応じて検討していく。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		当事業所には、医療的ケアが必要な子どもは通所していないが、今後必要に応じて連携できる体制を整えていく予定。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	主治医がいる児童に関しては、契約書にご記入いただくようにし、内容を全職員で把握するようにしている。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	必要に応じて連携を図っている。今後も保護者様からご要望があれば情報共有していく。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	保護者様からの依頼があれば、希望に応じて就学支援シート作成の協力をしている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	必要に応じて連携を図っている。今後も継続していく。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		交流の場はないため、今後必要に応じて検討していく。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		現在特にしていないため、今後必要に応じて検討していきたい。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	毎回の支援終了後に保護者とのフィードバックの時間を設け、希望に応じて学校や家庭での様子を伺いながら、支援の様子と合わせて、状況や課題を共通認識している。	

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

2023年度

事業所名 TAKUMI練馬武蔵関教室

	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている	ペアレントトレーニングは特に実施していないが、日々のフィードバックの中で、子ども対応について親へのアドバイスを行っている。また面談時に相談を受けた場合も、指導員が回答するなどして支援を行なっている。	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	運営規程の内容や利用者負担額については、主に契約時に説明しており、支援の内容は様々な状況で説明している。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	児発管が支援計画を作成・説明を行い、同意を得ている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	指導員や児発管が悩みを話せるように声掛けし、助言や支援を行っている。一人の判断で回答できないときは、スタッフ間でミーティングを行い回答するように心がけている。また、電話で経過を伺うなどして相談に応じている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		父母の会や保護者会は行っておらず、感染予防のため、現在は見学は基本行われていない。今後の状況を見ながら緩和していく方針。また、保護者からの要望があれば、必要に応じて保護者同士の連携を支援する方法、体制を検討していく。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	速やかに対応するように心がけている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	会報は発行していないが、必要に応じてお知らせを配布している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	個人情報と判断できる資料は、シュレッダーを掛けたり、施錠できる書庫の中に保管する等適切に取り扱っている。フィードバック時は、他の者から距離をとる等の取り組みを行っている。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	一人一人の特性や障害に応じて配慮をしている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		現在特にしていないため、今後必要に応じ検討していく予定。
	非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	左記マニュアル類は作成しており、職員には周知している。契約時に左記マニュアル類の有無は保護者に伝えている。さらに保護者への周知のため、左記マニュアルの詳細が目に見える箇所にあるよう検討していく。
42		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	全クラスにおいて定期的な訓練を行っている。	
43		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	契約の際に保護者の方にフェイスシートを記入いただいている。変更があった場合は、随時情報提供していただいている。毎日のミーティングにおいて職員間で情報共有をしている。	
44		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	活動中の食事は無いが、契約面談時の面談にて保護者に食物アレルギーの聴取をしている。今後、必要に応じて医師の指示書の必要性を検討していきたい。	

## 児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

2023年度

事業所名 TAKUMI練馬武蔵関教室

45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	その都度記録し、全職員で共有するとともに、今後の対応策を話し合い実践している。	
46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	東京都主催の虐待防止研修に参加。参加した者が講師となって講習したり、虐待防止の資料をもとに内部研修を行っている。	
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	東京都主催の虐待防止研修に参加。参加した者が講師となって講習したり、虐待防止の資料をもとに内部研修を行っている。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

2023年度

事業所名 TAKUMI練馬武蔵閣教室

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	19				広々して動きやすい。	ありがとうございます。今後も運動スペースを生かした支援を行って参ります。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	18			1	一人一人に対応してもらっている。	ありがとうございます。今後もお子様の特性に合わせたプログラムを考案・実施して参ります。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	17				2 ルーティーン化しやすい環境だと思う。	ありがとうございます。今後も整理整頓を心がけ、安心して楽しく通っていただける教室づくりを目指して参ります。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	18	1				ありがとうございます。今後も整理整頓を心がけ、安心して楽しく通っていただける教室づくりを目指して参ります。
適切な支援の提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	19				子どものベースに合わせた活動を行っている。 面談内での親からの意見をきちんとくみ取った計画案が作成されている。	ありがとうございます。今後もお子様の特性に合わせたプログラムを考案・実施して参ります。
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	17				2 楽しく行っていたい。	ありがとうございます。今後もお子様の特性に合わせた運動プログラムを考案し、「楽しい」を通してたくさんのごことを身につけてもらえる教室づくりを目指して参ります。
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	19					
	8 活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	19				子どもに合わせたサポートを行っていたい。	ありがとうございます。今後もお子様の特性に合わせたプログラムを考案・実施して参ります。
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	3	1	6	9		
保護者への説明	10 運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	19				とても丁寧でわかりやすい説明でした。	ありがとうございます。今後も安心して大切なお子様を託していただけるよう、わかりやすい説明を心がけて参ります。
	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明がなされたか	17				2	
	12 保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)が行われているか	6	2	6	5	面談や相談の際に一緒に考えアドバイスをくれる。 毎回やったことと様子や課題について説明があり安心して任せられている。	ありがとうございます。今後も安心して通っていただけるよう努めて参ります。
	13 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	18	1				
14 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	15	1	1	2			

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

2023年度

事業所名 TAKUMI練馬武蔵間教室

切等	15	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	2	1	8	8	元々知り合いのママさんとTAKUMIの通所の際に会うと情報交換している。	今後必要に応じて実施していきます。
	16	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	16	1		2		
	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	16				3	
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	10	1	2	6		
	19	個人情報の取り扱いに十分注意されているか	18				1	
非常時等の対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか。	18			1	先生が不審者役で訓練をした。マニュアル等はあるかもしれないが訓練実施はよく分からない。	実施している対応策に対しては教室で行い、保護者様に周知していきます。
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	14		1	4		
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしているか	18		1			
	23	事業所の支援に満足しているか	18		1		子どものペースに合わせて前向きに活動に取り組んでいる。	ありがとうございます。今後もお子様の特性に合わせたプログラムを考案・実施して参ります。

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

2023年度

事業所名 TAKUMI練馬武蔵関教室

	チェック項目	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	法令を順守したスペースは勿論のこと、運動のできるスペースを確保している。	
	2 職員の配置数は適切である	配置加算を採用しているため、常時指導員は常に3名体制となっている。他教室からヘルプの指導員も含めて適切に配置されている。	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	建築基準法に基づき、トイレには車椅子対応の手すりなどを取り付け、バリアフリー化の配慮を行っている。	
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	ヒヤリハット、事故対策、会議議事録、感染対策、虐待防止対策、研修実施議事録、相談苦情、非常災害対策等々の担当者を割り振り、定期的なミーティングを行っている。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	保護者向け評価表は毎年実施し、計画的に改善を行っている。必要に応じ、保護者の方へ直接説明や改善内容をお伝えし、その内容を職員間で共有している。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	HPで公表している。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		現在第三者による外部評価は行っていないが、必要に応じて検討していく。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	内部研修の他、外部研修にも参加し、全員周知・把握に努め、療育支援に繋げている。	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	児発管と指導員が児童の様子と保護者の要望を確認しながら、個別支援計画を作成している。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	適応行動の状況は日々のミーティングで確認している。標準化されたアセスメントシートを使用し、必要に応じ確認している。	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	全職員で定期的に会議を行い、児童の様子も鑑みてプログラムを立案している。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	運動は児童の様子や保護者のニーズを取り入れながら、日ごとにプログラムを変えている。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	当事業所は平日と休日ともに開所しており、サービス提供は平日と休日、特段変わりがないため、基本同じ内容で実施している。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで放課後等デイサービス計画を作成している	当事業所は個別クラスと集団クラスが設けられているため、契約時に適性を見極め各々のクラス設定を行い、子どもの成長度合いに応じ、クラス変更を児発管、指導員、保護者、子どもの意見を聴取し行っている。それぞれのニーズに合わせて個別の活動にも出来る限る対応できるようにしていきたい。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	支援開始前に必ず毎日打ち合わせの時間を確保し、課題を書き出しミーティングの中で、支援方法や役割分担を行っている。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	支援終了後に必ず毎日打ち合わせの時間を確保し、1日の振り返りミーティングの中で、気づいた点や改善点洗い出している。	
17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	サービス提供記録へ記入し、更に独自の1日の情報記録用紙(児童の一言情報)にも記入し、検証している。		

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

2023年度

事業所名 TAKUMI練馬武蔵関教室

	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	契約後、3か月以内に定期的にミーティングを行い、計画の見直しの必要性を判断している。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	総則通り行っている。	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	コロナの影響で直接会議に参加する機会は少ないが可能なかぎり電話などで児童発達支援管理責任者が主に参加している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	情報共有は行っていないが、学校のホームページや保護者を通して年間計画を参照し、情報収集をしている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		当事業所には、医療スタッフが存在しないことと、医療的ケアの必要なお子様が通所していないが、今後受けれる場合は、主治医との連絡体制は整えていく予定。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	現在は就学前の各園との情報共有等は行っていないが、放課後等デイサービスや保険対象外の療育施設との情報共有や相互理解は要望があれば対応している。今後、必要に応じ検討していきたい。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	資料を提供できる体制は整っている。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	外部研修には、主にオンラインで参加している。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		現在は限られた営業時間の中で実施するのは難しく、実施していない。今後必要に応じて検討していく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		各自治体の方針によって参加の有無が異なっているが、今後も機会があれば、参加していきたい。
保護者	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	毎回の支援終了後に、保護者とのフィードバックの時間を設け、学校や家庭での様子を伺いながら、支援の様子と合わせて状況や課題を共通認識している。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	ペアレントトレーニングは特に実施していないが、日々のフィードバックの中で、子ども対応について親へのアドバイスをを行っている。また面談時に相談を受けた場合も、指導員が回答するなどして支援を行なっている。	
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	運営規程の内容や利用者負担額については、主に契約時に説明しており、支援の内容は様々な状況で説明している。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	毎回、指導員や児発管が悩みを聞き出すように声掛けし、助言や支援を行っている。一人の判断で回答できなときは、スタッフ間でミーティングし、回答するように心がけている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		父母の会や保護者会は行っておらず、感染予防のため、現在は見学は基本行われていない。今後の状況を見ながら緩和していく方針。また、保護者からの要望があれば、必要に応じて保護者同士の連携を支援する方法、体制を検討していく。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

2023年度

事業所名 TAKUMI練馬武蔵関教室

への説明責任等	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	苦情・要望については、受け付けた時点で都度対応し早急に改善している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	会報等は発行していないが、新入社員紹介などは契約者全員に紙面で発信している。また連絡事項は事業所内の分かりやすい場所に掲示している。	
	35	個人情報に十分注意している	個人情報と判断できる資料は、シュレッダーを掛けたり、施錠できる書庫の中に保管する等適切に取り扱っている。フィードバック時は、他の者から距離をとる等の取り組みを行っている。	
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	一人一人の特性や障害に応じて配慮をしている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		現在特にしていないため、今後必要に応じ検討していく予定。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	左記マニュアル類は作成しており、職員には周知している。契約時に左記マニュアル類の有無は保護者に伝えている。さらに保護者への周知のため、左記マニュアルの詳細が目に見える箇所にあるよう検討していく。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	全クラスにおいて定期的な訓練を行っている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	東京都主催の虐待防止研修に参加。参加した者が講師となって講習したり、虐待防止の資料をもとに内部研修を行なっている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	東京都主催の虐待防止研修に参加。参加した者が講師となって講習したり、虐待防止の資料をもとに内部研修を行なっている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	活動中の食事は無いが、契約面談時の面談にて保護者に食物アレルギーの聴取をしている。今後、必要に応じて医師の指示書の必要性を検討していきたい。	
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	その都度記録し、全職員で共有するとともに、今後の対応策を話し合い実践している。		

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

2023年度

事業所名 TAKUMI練馬武蔵関教室

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	14	1				
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	15					
	3	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	10	1		4		
適切な 支援の 提供	4	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画※ i が作成されているか	15				子どもの保護者の話をよく聞いて計画してくれます。	ありがとうございます。今後も保護者様のご要望をうかがいながら、お子様の特性に合わせたプログラムを考案・実施して参ります。
	5	活動プログラム※ ii が固定化しないよう工夫されているか	15				今日何をやるんだらうと子どもが楽しみにしています。	ありがとうございます。今後もお子様の特性に合わせた運動プログラムを考案し、「楽しい」を通してたくさんのお子様のことを身に付けてもらえる教室づくりを目指して参ります。
	6	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	2	3	8	2	なくていいと思う。	ご意見ありがとうございます。保護者様のご要望をうかがいながら、必要に応じて検討して参ります。
保護者 への 説明等	7	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	15					
	8	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	15				こちらからの提案もすぐに活動に盛り込んでくれる。	ありがとうございます。今後も保護者様のご要望をうかがいながら、お子様の特性に合わせたプログラムを考案・実施して参ります。
	9	保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	14	1				
	10	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	2	3	8	2	なくていいと思う。	ご意見ありがとうございます。保護者様のご要望をうかがいながら、必要に応じて検討して参ります。
	11	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	12			3		
	12	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	15					
	13	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	7	4		4		
非常時 等の 対応	14	個人情報に十分注意しているか	14			1		
	15	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	13			2		
	16	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	14			1		

## 保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

2023年度

事業所名 TAKUMI練馬武蔵関教室

満足度	17	子どもは通所を楽しみにしているか	14	1			苦手なことにもチャレンジし自信につながっている。楽しみにしている。	ありがとうございます。今後お子様の特性に合わせた運動プログラムを考案し、「楽しい」を通して皆さんのことを身につけてもらえる教室づくりを目指して参ります。
	18	事業所の支援に満足しているか	15					

※ i 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

※ ii 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障害特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。